

2017年11月19～20日

改憲、共闘、米軍

憲法改正「急いではだめ」＝二階自民幹事長

時事通信 2017-11-19 11:26

自民党の二階俊博幹事長は19日放送のラジオ日本番組で、憲法改正について「慎重の上にも慎重に時機を見てテーマに取り上げていくことが大事で、急いではだめだ」と述べた。また、連立を組む公明党の理解を得ることが重要との認識も強調した。収録は13日。

来年秋の自民党総裁選に関しては「今のまま堅実に政治を進めていけば、安倍政権支持が圧倒的に多くなる」との見通しを示した。

稲田氏、涙ぐみ再出発＝「改憲へ役割果たす」

時事通信 2017-11-19 18:52

「安倍晋三首相が歴史的チャレンジと言っている憲法改正が現実味を帯びている。自民党国会議員の一人であることの責任と役割を果たしていきたい」。同党の稲田朋美元防衛相は19日、福井市で開いた自身の後援会会合であいさつし、再出発を誓った。

稲田氏は国連平和維持活動（PKO）日報問題で7月に防衛相を辞任。内閣支持率が低迷する一因となり、党内外から批判された。あいさつで先の衆院選を振り返った際は「胸がいっぱいになる」と涙ぐむ場面も。しかし、すぐに気を取り直し「厳しい選挙を戦って前回よりも114票伸ばした」と、みそぎが済んだことも強調した。

会合には二階俊博幹事長も出席。二階氏は「首相になってもらいたいから頑張らなければと急に言い出しても始まらない。常日頃から皆様方の支援を党としてお願いしたい」と呼び掛けた。

自民党大会、3月下旬に開催へ 改憲案絞り込み焦点

共同通信 2017/11/19 16:38

自民党は19日、定期党大会を来年3月下旬に東京都内のホテルで開催する方向で調整に入った。近く党総務会で決定する。党関係者が明らかにした。同党は1月召集の通常国会で憲法改正案を示す方針。党大会で採択する2018年運動方針で、具体的な内容やスケジュールをどこまで絞り込めるかが焦点となる。論議の加速を狙い、党内調整を本格化させる。

関係者によると、党大会の日程は3月25日が軸。首相が1月に中東などへの外国訪問を検討していることや、日中韓首脳会談が1月にずれ込む可能性も考慮した。

「共産と連携、死んでも…」 前原氏、最後の代表を決意 朝日新聞デジタル石井潤一郎、斉藤太郎 2017年11月20

日07時01分

野党再編をめぐる経緯

2016年 民主党に維新の党などが合流。民進党に3月 改称

7月 参院選で民進党が共産党などと野党共闘。32の1人区で統一候補を擁立し、11勝の成果

東京都知事選で小池百合子氏が初当選

9月 民進代表選に共産党との共闘路線を「リセットする」と訴えた前原誠司氏が立候補。蓮舫氏に敗れる

10月 小池氏が政治塾「希望の塾」を開講

17年2月 希望の党の商標登録を出願

7月 東京都議選で小池氏率いる都民ファーストの会が躍進。自民、民進は惨敗、民進の蓮舫代表が辞任

8月 民進代表選に野党共闘見直しの前原氏と共闘継続の枝野幸男氏が立候補

9月 民進代表に前原氏選出



野党再編をめぐる経緯

7月の東京都議選で、都知事の小池百合子率いる「都民ファーストの会」が躍進すると間もなく、若狭勝や細野豪志ら国会議員が東京・本郷の「鳩山ビル」の一室に集まるようになった。

小池氏「護憲、遠慮願う」前原氏「当たり前」深夜の密談後に、小池が立ち上げる新党「希望の党」の結党メンバーたちが衆院選戦略を練る拠点だった。

小池の国政進出計画は、初当選を果たした昨年7月の都知事選後から動き出した。小池は周辺に「政党名を『希望の党』にしたい」と意欲を示し、10月に自らが塾長を務める政治塾「希望の塾」を開講した。

今年2月には、「希望の党」の商標登録を出願。8月に入ると、衆院選で掲げる政策の取りまとめや、新党のPR動画の作成準備に入った。若狭と細野を中心に、9月の時点で独自候補約70人の選定を終えていたという。

小池の念頭にあったのは、東京、大阪、愛知の3知事が連携して、地方自治のトップとして国政に挑む構図だった。都知事選や都議選のような旋風を起こして、3大都市圏で一定の勢力を得る。さらに2019年参院選と、その前後の衆院選で政権獲得を目指す——という構想だ。

9月17日に臨時国会冒頭での衆院解散の可能性が報じられると、小池は東京・丸の内のパレスホテルで、愛知県知事の大村秀章と秘密裏に会談。「3都で連携して、地方自治を訴えませんか」と切り出した。大村も5月ごろから、細野ら東海地方が地盤の国会議員らと会合を重ね、地域政

党の立ち上げを模索していた。

小池は、日本維新の会代表で大阪府知事の松井一郎とも連携交渉を進め、9月30日には3人で記者会見。地方分権や成長戦略の共通政策をまとめ、衆院選での協力を申し合わせたことを明らかにした。だが、希望が失速するなか、大村が戦線から離脱し、小池のねらいは頓挫した。

東京都の小池百合子知事は昨年の知事選後から、国政進出計画を着々と進めていました。一方の前原誠司・民進党前代表は数年来、政界再編に強い執念を燃やしていました。野党第1党の分裂劇の「源流」と二人の思いを探りました。

そもそもの構想では、政権を狙…

民進 立民や希望との連携に向けて時間をかけて協議へ

NHK11月20日 4時33分

民進党は、再来年の参議院選挙などに向け、現在の地方組織を存続させ、今後、立憲民主党や希望の党との連携を強めたいとしています。立憲民主党は野党勢力の再編に慎重で、すでに2つの県で地方組織を発足させていることなどから、時間をかけて協議していく方針です。

民進党は、再来年の統一地方選挙や参議院選挙などに向け、党の地方組織の態勢を立て直すため、衆議院の小選挙区ごとに設けている総支部を存続させる方針を確認しました。党の常任顧問の岡田克也氏は、みずからのブログで、参議院選挙で立憲民主党や希望の党と候補者調整を行うことが望ましいとして、まずは国会で両党との連携を強めていきたいとしています。

一方、立憲民主党は、野党勢力の再編に慎重で、すでに愛知県と宮城県で地方組織を発足させていて、19日に投票が行われた名古屋市議会議員の補欠選挙で党の公認候補が当選し、地方議会で初の議席を獲得しました。

また、先週、執行部が発足した希望の党は、今後、地方組織の整備を具体的に検討する方針で、国会対応については、党内から、立憲民主党などと連携すべきだという意見に加え、保守政党として日本維新の会との連携が望ましいといった声なども出ています。

こうしたことから、民進党としては、立憲民主党と希望の党との連携に向けて時間をかけて協議していく方針です。

連合 野党再編と距離 衆院選総括素案、連携必要性は指摘

毎日新聞 2017年11月20日 07時30分(最終更新 11月20日 07時30分)

民進党を支持してきた連合がまとめた先の衆院選総括の素案が19日、明らかになった。民進が立憲民主党と希望の党に分裂した選挙戦を「組織力を十分に発揮し得る状況に至らなかった」と総括。今後の方針について「政党の離合集散からは距離を置き、議員一人一人との関係に重きを置いた新たな枠組みを検討する」として、民進系の再結集

や野党再編とは一定の距離を置く姿勢を示した。

一方で、2019年参院選での比例代表を挙げ「働く者の政治勢力を大きな塊として形成することが極めて重要」として、連携の必要性は指摘した。連合は衆院選では特定の政党を支援せず、既に推薦していた民進出身の候補者を個別に支援した。

素案では、民進の前原誠司前代表が衆院選直前に決断した希望への合流方針に対して「仮にあのまま総選挙に突入していれば、民進は選択肢とはなり得ず埋没していた」として一定の理解を示した。一方で、合流者の一部を「排除する」とした希望の小池百合子前代表（東京都知事）の発言を巡っては「公認・政策調整の幅をいたずらに狭めるなどガバナンス（統治）の面で問題があった」と批判した。

また、希望について「総選挙で日本維新の会と連携するなど立ち位置が明確になっていない」、立憲については「共産党との関係にも注視が必要」とそれぞれ指摘した。総括案は来月にも正式決定する。【影山哲也】

質問時間の配分めぐり 与野党が議論 NHK日曜討論

NHK11月19日 11時54分

NHKの番組「日曜討論」で、与野党で協議が続いている衆議院の委員会での質問時間の配分をめぐって、与党側は国会での議論を議事録に残すためにも、これまでより増やすよう求めたのに対し、野党側は「野党の質問の排除だ」などとして、受け入れられないと主張しました。

自民党の萩生田幹事長代行は「与党といえども政府の下請けではなく、法律の整備などを国民にお願いする以上は、与党もどういった議論があったのか、一定程度の時間を確保し、きちんと議事録に残しておきたい。前例は大事だが、前例、慣例にとらわれずに、新しい時代の国会の運営を考えていく必要がある、これを機に与野党で腰を据えて話し合う機会を作ってもらいたい」と述べました。

公明党の斎藤幹事長代行は「法律を作ることについては、与党で事前審査をしているので、野党に十分配慮するのは当然だ。ただ、作った法律を政府がどう実行していくのかチェックするには、与党も野党もないので、われわれにも発言のチャンスを与えてもらいたい」と述べました。

これに対して、民進党の増子幹事長は「言語道断だ。質問時間の制限は野党の質問の排除で、これでは国会の議論が十分なされない。与党は事前に政務調査会の部会でしっかりと議論するが、野党には霞が関の省庁から十分な説明もない。自民党は頭を冷やして再考してほしい」と述べました。

立憲民主党の福山幹事長は「少数意見や多様な意見に耳を傾けるのが議会の在り方だ。国民の疑問や意見を伝える役割がわれわれにはある。自民党は野党時代に『1対4で時間をくれ』と言ったことを、与党になったとたん、ひっくり返すのは、全くもって理屈に合わない」と述べました。

希望の党の古川幹事長は「自民党の政治は事前審査制で、国会に法案が出てくるまで、すべて与党内で調整している。だから、国会では野党の話しか聞かないことになっている。事前審査制をやめて国会で修正する努力をしようと思えば理屈はない」と述べました。

共産党の小池書記局長は「与党は、よほど『質問を受けない』『議論したくない』ということだ。野党に対して、十分な時間を配慮するというのは、議院内閣制の根本で、そのルールを壊すのは絶対に許されない」と述べました。日本維新の会の馬場幹事長は「国民の側から見ると『何をやっているのだろう』という感じだ。前例、慣例、悪例に基づいて、国会が運営されているのはひどい状態であり、国会改革をやる時期に来ていると思う」と述べました。

自由党の玉城幹事長は「野党の質問時間が今でも十分にあるとはとても言えない。政府の答弁が変わった時に、根本的な原因を探っていくのが野党の仕事だ」と述べました。

社民党の又市幹事長は「政権についたら、野党の時間を減らすというのは全く、ご都合主義で言語道断だ。今までどおりの配分を守るべきだと強く求めたい」と述べました。

いま社会主義とは ロシア革命100年、不破哲三氏語る
朝日新聞デジタル聞き手・三浦俊章、池田伸壹 2017年11月19日16時08分



自宅

庭のベンチに座る共産党の不破哲三前議長＝相模原市緑区、池永牧子撮影



ロシア革命から100年。労働者による革命で社会主義を打ち立てようというマルクスの思想が、ソ連という国家の形で実現し、世界は大きく揺さぶられた。だが、国際社会を二分する冷戦を経て、ソ連は1991年に消滅する。革命は世界をどう変えたのか。いま社会主義とは何か。日本共産党の不破哲三前議長に聞いた。

——ロシア革命を今日、どう評価しますか。

「20世紀初頭は、資本主義が全世界を支配していた時代でした。その時、資本主義に代わる新しい社会を目指す革命がロシアで勝利した。マルクスの理論の中でしかなかった社会主義が現実化し、世界に大きな衝撃を与えたのです。社会党などがあつた国では、左派が共産党に発展する。日本のように社会主義者はいるが、政党がなかった国にも共産党が生まれた。影響は世界に広がり、第2次大戦後には、中国やベトナムなどで革命が起きた」

「もうひとつ大事なことは、ロシア革命が起点となって、民主主義の原則が新たな形で世界に定着したことです。のちに社会的権利と呼ばれる労働者の権利が、革命後の人民の権利宣言で初めてうたわれた。男女平等を初めて憲法に盛り込んだのもソ連の最初の憲法でした。革命は第1次世界大戦中に起きたが、革命政権は、大戦終結の条件として、民族自決権の世界的確立を求めた。これは国連の植民地廃止宣言に実りました。世界の民主的国際秩序の先駆けとなる原則を打ち立てました」

——ロシア革命の功罪のうちの「功」ですね。では、「罪」はどうでしょうか。

「ソ連が積極的役割を果たした…」

日米防衛相、来年1月に会談へ 政府調整 陸上型イージスも視察

2017/11/19 17:09 情報元日本経済新聞 電子版

小野寺五典防衛相は2018年1月、米ワシントンを訪れ、マティス国防長官と会談する調整に入った。核・ミサイル開発を続ける北朝鮮の情勢について話し合う。ハワイのカウアイ島も訪れ、米軍の陸上配備型の迎撃システム「イージス・アショア」の実験施設を視察する予定だ。

来年の通常国会召集前の訪米を調整している。小野寺氏がかねて北朝鮮情勢が年末から年明けにかけて緊迫するとの見方を示してきた。日米防衛相会談で最新の情勢を擦り合わせる。

防衛省はミサイル防衛(MD)を強化するためイージス・アショアの導入を固めている。小野寺氏は実験施設を視察し、運用のノウハウや部隊の規模を参考にする。米太平洋軍のハリス司令官と会い、北朝鮮情勢などを話し合う。

イージス・アショアはイージス艦のミサイル迎撃システムを地上に配備するもので同等の迎撃性能をもつ。政府は秋田、山口両県の日本海側に1基ずつ配備する予定で、18年度から土地整備に入り、23年度の配備をめざしている。

飲酒死亡事故で米兵逮捕＝軽トラと正面衝突―沖縄県警 時事通信 2017-11-19 19:32

19日午前5時25分ごろ、那覇市泊の国道で米軍トラックが軽トラックと衝突し、軽トラを運転していた同市宇栄原の会社員平良英正さん(61)が胸などを強く打ち死亡した。沖縄県警那覇署は同日、自動車運転処罰法違反(過失運転致死)と道交法違反(酒気帯び運転)の疑いで、キャンプ・キンザー(同県浦添市)所属の海兵隊上等兵ニコラス・ジェームズマクリーン容疑者(21)を逮捕した。容疑を認めているという。

同署によると、右折しようとした平良さんの軽トラに、反対車線を直進してきた米軍のトラックが衝突した。同容疑者の呼気からは基準値の約3倍のアルコールが検出され、同署は危険運転致死罪での立件を視野に捜査を続ける。県警の照会に、米側から公務外での運転だったと回答があった。

事故を受け、在沖縄米軍トップのニコルソン四軍調整官が声明を出し、「深い遺憾とご遺族への哀悼の意を伝えたい」と表明。捜査当局に協力するとともに、再発防止に努める意向を強調した。

沖縄で米軍車両が衝突、男性死亡 飲酒疑いで海兵隊員逮捕 共同通信 2017/11/19 21:10



米軍車両と衝突し変形した平良英正さんの軽トラック＝19日午後、那覇署

19日午前5時25分ごろ、那覇市泊2丁目の国道58号交差点で、米軍の2トントラックが会社員平良英正さん(61)＝同市＝の軽トラックと衝突し、平良さんは胸などを強く打って搬送先の病院で死亡した。

2トントラックを運転していた米海兵隊牧港補給地区(浦添市)所属の上等兵、ニコラス・ジェームズマクリーン容疑者(21)の呼気から基準値の約3倍のアルコールが検出され、那覇署は自動車運転処罰法違反(過失運転致死)

と道交法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕した。

署によると、交差点を直進した米軍のトラックが、対向車線から右折しようとした軽トラックに衝突した。

酒気帯び容疑で米兵逮捕 軽トラに衝突、男性死亡 那覇 朝日新聞デジタル小山謙太郎 2017年11月19日21時21分

19日午前5時25分ごろ、那覇市泊2丁目の国道58号交差点で、同市宇栄原(うえばる)2丁目の会社員平良(たいら)英正さん(61)の軽トラックと2トントラックが衝突、胸を強く打った平良さんは搬送先の病院で死亡が確認された。沖縄県警はトラックを運転していた米海兵隊員を自動車運転死傷処罰法違反(過失運転致死)と道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕し、発表した。容疑を認めているという。

那覇署によると逮捕されたのは、キャンプ・キンザー所属の上等兵ニコラス・E・ジェームズマクリーン容疑者(21)。呼気から基準値の3倍近いアルコールが検出された。トラックは米軍の公用車だったが、私用で運転していた。容疑者は左腰に擦り傷を負った。

直進してきた容疑者のトラックが、対向車線から右折してきた平良さんの軽トラックと衝突した。容疑者側は赤信号だったとの目撃証言が複数あるといい、当時の状況を詳しく調べる。

在沖米軍トップのニコルソン四軍調整官は19日、「事故で亡くなった方のご家族と友人に、深い遺憾と哀悼の意を示したい」とのコメントを発表。事故原因を究明し、再発防止のため「あらゆる手段を講じる」としている。

また外務省は、在日米大使館と在日米軍に対して綱紀粛正と再発防止を申し入れた。ハガティ大使は杉山晋輔事務次官に対し、捜査への協力と再発防止策に全力を尽くす考えを伝えたという。(小山謙太郎)

米海兵隊員が飲酒運転で事故 在日米軍が飲酒禁止などを指示

NHK11月20日4時57分

19日、沖縄県那覇市で、アメリカ海兵隊員が飲酒運転をして軽トラックと衝突事故を起こし、運転手を死亡させたとして逮捕されたことを受けて、沖縄に駐留する第3海兵遠征軍は在日アメリカ軍が、「すべての兵士」に対し、飲酒の禁止などを指示したと明らかにしました。

19日、沖縄県那覇市の国道で、アメリカ海兵隊の牧港補給地区に所属する上等兵、ニコラス・ジェームズマクリーン容疑者(21)が、軽トラックと衝突事故を起こし、運転手の61歳の男性を死亡させたとして、過失運転致死と酒気帯び運転の疑いで逮捕されました。

上等兵の息からは基準値のおよそ3倍のアルコールが検出されたということで、警察は、危険運転致死容疑での立件

も視野に調べを進めています。

この事件を受けて、沖縄に駐留する第3海兵遠征軍は、公式のツイッターで、在日アメリカ軍がすべての兵士に対し、飲酒の禁止や夜間の外出禁止などを指示したことを明らかにしました。

この措置は、新たな指示があるまで継続されるということです。

沖縄県内では、去年にもアメリカ軍の軍属の男が女性を殺害したとして逮捕された事件を受け、すべての兵士と軍属に対して、飲酒などを制限する命令が出されました。

空自、核搭載可の米 B52 と訓練 日本海で8月、半島有事念頭に

2017/11/19 16:17



韓国・烏山上空を通過する米軍の B52 戦略爆撃機 (共同)

核兵器の搭載が可能な米空軍の B52 戦略爆撃機が8月、日本列島上空を横断し、航空自衛隊の F15 戦闘機と日本海上空で共同訓練をしていたことが19日、政府関係者への取材で分かった。日本海上空での空自戦闘機と B52 との訓練が公になるのは初。日米が一体となり、朝鮮半島有事を念頭に訓練を繰り返している実態が明らかになった。

政府関係者によると、日本政府は「非核三原則」を踏まえ、訓練前に核を搭載しないことを確認した。B52は8月、太平洋側から東北付近の上空を西に横断し、日本海で F15 と共同訓練を実施。編隊で飛行する手順の確認などをしたという。

産経新聞 2017.11.19 16:35 更新

空自、核搭載可能な米 B52 と訓練 日本海で8月

核兵器の搭載が可能な米空軍の B52 戦略爆撃機が8月、日本列島上空を横断し、航空自衛隊の F15 戦闘機と日本海上空で共同訓練をしていたことが19日、政府関係者への取材で分かった。日本海上空での空自戦闘機と B52 との訓練が公になるのは初。

政府関係者によると、日本政府は「非核三原則」を踏まえ、訓練前に核を搭載しないことを確認した。B52は8月、太平洋側から東北付近の上空を西に横断し、日本海で F15 と共同訓練を実施。編隊で飛行する手順の確認など

をしたという。

空自戦闘機と米軍の B1 戦略爆撃機、F35 最新鋭ステルス戦闘機などは九州周辺で頻繁に共同訓練をしており、一部は公表されている。B52 と空自戦闘機との訓練は公表しておらず、政府関係者は「訓練全てを公表すればいいというものではない。核兵器が搭載できる B52 が接近したことが分かれば、北朝鮮は強いプレッシャーを受ける」と話している。